



気づき、考え、実行する茂木っ子

もぎたて通信



令和6年7月19日 第10号

文責：校長 北村 和則



1 学期が無事に終わります

4月に始業式を迎え、4か月間の茂木小での学びを無事に終えることができました。これも、子どもたちの頑張りはもちろんのこと、保護者の皆様のサポートや励ましのおかげであると、感謝申し上げます。

終業式では、次のような話をしました。

まずは、各学年の頑張りを称賛しました。1年生は、入学してから4か月間で小学校生活にも慣れ、学習に給食に掃除に・・・と小学生らしくたくましくなってきました。最高学年の6年生は、運動会をはじめ、茂木小のリーダーとして活躍しました。責任感も出てきたと感じています。頼れるリーダーに成長してきています。各学年それぞれに、学習や校外行事も含め成長が感じられた1学期でした。44日間という長い夏休みに入りますが、宿題はもちろんのこと、夏休みに自らチャレンジする目標を見つけ継続して取り組んでもらいたいと思います。そして、「命は大事」ということについて話をしました。長い夏休みにおいて、大きな事故やケガなく、全員が元気に9月2日に会えることを願っています。



命(いのち)は「だ・い・じ」

だ～だれもが ひとつしかもっていない

い～一度なくすと もどらない

じ～自分が自分である証

通知表について

保護者のみなさんには、茂木小の「あゆみ」という形で、学期ごとの学習評価をお知らせします。茂木小学校では、評価の材料として、テストの点数だけで評価はしません。もちろん知識獲得や思考においてテスト結果も参考にはしますが、文章による説明やレポートの作成、グループでの話し合いやノート等による表現、授業中の発言や行動観察など多くの記録から評価をしていきます。あゆみには次のように見方を説明しています。

- ☆ あゆみは、子どもののびていくすがたを、学習と生活の両面から記録したものです。
- ☆ 子どもの状態を見つめて、今後の指導や、子ども自身の学習の手がかりになるように評価しています。

また、★学習の様子 「観点別学習状況」の欄について

他との比較ではなく、個々の児童について、各学期毎に各教科の目標に照らして、その実現状況を観点毎に「十分満足できる」を「◎」、「満足できる」を「○」、「努力を要する」を「△」の3段階で評価しています。

令和の評価は、より良い学び、より良い成長のためにあることをご確認いただき、◎の数に一喜一憂することなく、子どもの励ましやさらなる意欲につながるような声掛けをお願いします。

裏面に続く⇒

学習指導要領の改訂では、児童は「何ができるようになるのか」という視点に立ち、全教科等の目標及び内容が「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の資質・能力の三つの柱に整理され、学習評価の観点も3観点で示されました。観点別学習状況の評価の3観点は、「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」となっています。以下に、文部科学省の3観点の考え方について示しています。

「観点別学習状況の評価」の3観点の考え方

知識・技能

学習の過程を通じた知識及び技能の習得状況について評価するとともに、それらを概念等として理解したり、技能を習得したりしているかについて評価するものです。

現行の「知識・理解」と「技能」が統合されたものです。理解を伴った知識を基に、他の場面でも応用できる知識や技能の習得状況の評価します。

思考・判断・表現

各教科等の知識及び技能を活用して課題を解決する等のために必要な思考力、判断力、表現力等を身に付けているかどうかを評価するものです。

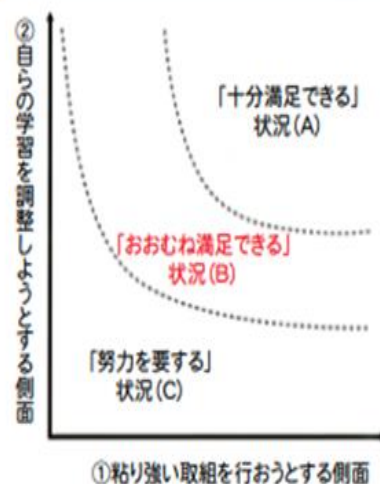
自分の考えを表現させたり、問題解決的学習で最適な答えを思考・判断させたりする等の学習場面を通して評価をします。

主体的に学習に取り組む態度

「主体的に学習に取り組む態度」の評価については、①知識及び技能を習得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることに向けた粘り強い取組を行おうとする側面と、②その粘り強い取組を行う中で、自らの学習を調整しようとする側面、という二つの側面から評価します。学習の進め方について試行錯誤する等の調整をしながら、学ぼうとしているかどうかという意思的な側面を評価します。

適切に評価するためには、児童生徒に学習のめあてや見通しをもたせたり、その達成状況を振り返らせたりすることが必要です。また、学習の途中にそのやり方等を調整しているかを見取ることも大切です。児童生徒の内面の変化を表出させる場面づくりが求められています。

「主体的に学習に取り組む態度」の評価イメージ



(注)イメージ図は、「学習評価の在り方ハンドブック」(文部科学省 国立教育政策研究所教育課程研究センター、令和元年6月)から引用。

特に「主体的に学習に取り組む態度」については、「知識・技能」や「思考・判断・表現」の観点の状況を踏まえたうえで、評価を行う必要があるため、これまでの「あゆみ」と比較すると、厳しい評価となっているかと思います。我々教師が研修を深め「指導と評価の一体化」を図ることで、評価が授業改善や学習改善へ結び付き、児童の確実な資質・能力の育成に結びつくよう努めていきます。大切にしていきたいことは、他との比較ではなく、一人一人のお子さんについて、より良い学び、より良い成長のためにあることをご確認いただき、◎の数に一喜一憂することなく、子どもの励ましやさらなる意欲につながるような声掛けをお願いします。